

秋田・洲崎遺跡(第二号)  
すざき

- 1 所在地 秋田県南秋田郡井川町浜井川字洲崎
- 2 調査期間 一九九八年(平10)五月~一〇月
- 3 発掘機関 秋田県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 高橋 学・渡邊慎一・小山有希・工藤直子・山根勇人
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代・弥生時代・平安時代(九世紀)・中世(一二三世紀~一六世紀)・近世
- 7 木簡の積文・内容  
遺跡は方二町(約三三〇m)の区画の外周を堀によって囲んだ集落であり、内部には道路、堀・溝による小区画が存在する。また井戸三二二基、掘立柱建物一一五棟、竪穴状遺構、土壙墓などの遺構も存在する。  
木簡は計一二点あり、その他に三点の墨書きのある木製品が出土した。今回は、前回紹介した木簡(本誌第二二号)で新たに積文が判明した二点(①②)と、追加資料四点の計六点を紹介する。  
(1)は井戸SE五八七から出土した。年輪年代測定により井戸の構築年代は一二八六年以降と判明している。(2)~(4)は集落の東端を画

する堀跡SD四九から出土した。この堀は幅約5m深さ約1mの規模で、遺跡の東端を南北に走っている。(5)は遺跡の西端にある井戸SE一五〇の最下層より出土している。

井戸SE五八七

(1)



「(刻書) アラツタナヤ 豆ウチ

くニトテ候

(僧侶の絵)

(人魚の絵)

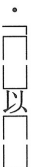
そわ可

806×145×5 011 21(1)

堀SD四九

(2)

・「□」以「□」



185×29×5 051 21(2)

(3)



(185)×29×3 019



(1) 部分



(198)×23×3 019

井戸SE一五〇

(5) ・「一斗二升」<sup>〔取カ〕</sup>  
「了」

・「二百五十」<sup>〔文カ〕</sup>小印

188×24×3 051

竪穴状遺構SK1-115



149×29×4 011

- (1)は本誌第二二号で紹介したように、上に僧侶、下に人魚の絵を描き、三行の文字を記す。さらに僧侶の右には刀子などで刻まれた文字らしきもの、また同様に人魚絵を囲み、これを消すような線刻も確認できる。(2)は残存する字形から表裏とも同じ文字を墨書したもののか。(3)は圭頭状を呈し、最上部に梵字のバンを墨書している。(4)も圭頭を意識したもののようなものである。

その他参考資料として、墨書絵のある木製品一点を紹介する。これは、方形を連続・連結して描いたものである。方形が屋敷地、その間の細長い間隙が道路と思われ、集落を描いた町割り図の可能性がある。法量は長さ七七三mm幅九四mm厚さ七mm、〇一一型式である。

### 8 関係文献

秋田県教育委員会『洲崎遺跡』(二〇〇〇年)(工藤直子・高橋 学)



(3)



(4)



(5)



(6)



(参考)